

つちや屋東を神戸と申て、三所相つゞく、此所より諸國の回船、ふなもちおほし、和名類聚に、神戸村と是あり、

〔太平記 十六〕經島合戰事
四國ノ兵共、大船七百艘、紺部ノ濱ヨリ上ラントテ、磯ニ傍テ、上リケル、兵庫島、三箇所ニ控ヘタル官軍五萬餘騎、船ノ敵ヲアゲ立ジト、漕行船ニ隨テ、汀ヲ東ヘ打ケル間、略

〔神戸開港三十年史 凡例〕慶應三年十二月七日、兵庫開港の式は行はれたれども、未だ曾て神戸開港の事なし、略抑も安政條約は獨立國對等の條約にあらずして、彼は治外法權を有し、我

は内地雜居を許さず、此に於て外人居留の神戸村地内に設定さるゝや、神戸、二ツ茶屋、走水の三村を以て互市場と爲せり、而して此時未だ神戸港なる名稱は生ぜざるなり、明治元年更始

の新政を施行さるゝに及び、神戸、二ツ茶屋、走水の三村を合して神戸町と命名し、其際創めて公文上に神戸港なる文字を見るに至る、故に兵庫開港と云へるは、單に其名のみにして、兵庫

港は最初より内外互市に關係する所なし、
〔神戸開港三十年史〕小野濱より正南大約六千九十尺、和田岬より東北約七千四百四十尺を、神

戸港港界線とし、其以内を神戸港と爲す、湊川其中央に注ぎて、神戸及兵庫の兩部に區分す、和田岬は直徑相距ること大約一萬二千二百尺にして、明治二十八年、海軍水路部の實測に據れ

ば、湊川の流末は、此和田、生田兩岬を連續せる直線より距ること千六百九十尺とす、湊川より北方生田岬に至る直徑五千九百七十尺、沿岸大約一萬尺の地は、即ち神戸港本部にして、南方

和田岬に至る直徑六千三百三十尺、沿岸一萬六百尺の地は、即ち兵庫部に於て、明治二十五年十月、始めて神戸港区域内に編入されし所なり、

〔攝津名所圖會 豊島郡〕猪名むかし大物の浦より、今の伊丹池田の邊、東は吹田江口のほとり、

〔萬葉集 雜歌〕羈旅作

猪名港